



No. 13  
平成22. 10. 1発行

「にじ」は男女でつくる社会への架け橋。  
一人ひとりが輝くまちづくりに向けて  
共に考え、行動してみませんか。

## 墨田区男女共同参画情報誌

**4** ページ **特集**  
**「性差」「健康」**  
 女性も男性もいきいきと  
**「性差」から考える**  
 成人男性基準の医療から性差に基づく医療へ  
 婦人科と女性外来の違いとは  
 女性外来の診察の流れと方針  
 男女が健康な生活を送るために

### 2 ページ 巻頭インタビュー

東京大学大学院教授  
上野千鶴子さん



おひとりさまの  
老後を支える  
仕組みがあれば  
誰もが安心して  
暮らせます

### 6 ページ 区民レポート

## どうしてますか？自分の健康づくり

進藤綾美さん「自分の体調を知ることが大事」

川村美奈さん「夫婦で参加できる講座を」

小倉久乃さん「家族のためにも自分の健康管理を」

### 8 ページ インフォメーション

### 10 ページ 墨田さんちの 男女共同参画物語

若者に増えている「デートDV」って？  
～太郎の高校の授業の巻

### 12 ページ 私らしく輝いて

定年後の趣味を活かし  
四季折々の花にあふれた公園づくり  
佐々木亮一さん



# 上野千鶴子さん

東京大学大学院教授



5人に1人が65歳以上という時代を迎え、高齢者のひとり暮らしが増えています。結婚していてもいなくてもいざ経験する確率の高いひとり暮らし。女性も男性も高齢期をいきいき生きるヒントについて、『おひとりさまの老後』の著者であり、社会学者として介護問題にも取り組んでいる上野千鶴子さんにお聞きしました。

## プロフィール◆

1948年富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了、平安女学院短期大学助教授、シカゴ大学人類学部客員研究員、コロンビア大学客員教授等を経て、93年東京大学文学部助教授、95年東京大学大学院人文社会系研究科教授。専門は女性学、ジェンダー研究。「近代家族の成立と終焉」など著書多数。近年は高齢者介護の問題にかかわっている。

●近年、介護の分野を研究対象とされていますが、ベストセラーとなった『おひとりさまの老後』を書く頃と思われた動機についてお聞かせください。

50歳の坂を越え、子どものいない老後が切実となってきたこと、それと同時期に介護保険制度がスタートしたことがきっかけです。

少子高齢社会では、長生きすればするほど、みんな最後はひとりになる確率が高まります。とくに平均寿命の長い女性はそう覚悟しておいたほうがよいですし、ひとりで暮らすためのノウハウを準備しておくに越したことはありません。ひとり暮らしのノウハウなら、シングルキャリアの私の出番というわけで、一つは、私と同世代の団塊の世代に向けて、「一緒におひとりさまの老後を助け合って生きませんか」、もう一つは、結婚しない生き方に不安

を感じているアラフォー世代シングルに向けて、「ひとりでも大丈夫だよ」と言いたくて書きました。

●具体的には、介護保険制度の導入がひとり暮らしの老後をどう変えたのでしょうか。

この10年間、介護の分野を研究のテーマとしてきましたが、介護保険制度の導入は家族の介護に頼らなくてもよいという点で大きな変化をもたらしたと思います。もちろん、まだまだ十分という声もありますが、介護の社会化が始まったことは大きいと思います。家族介護の負担を軽減するために、家族以外の人の手を導入しても構わないという認識があつたという間に定着したのですから。

これまでの社会の常識は、家族の中で老いて死ぬのが幸せであり、家族のいないひとり者の老後は寂しいとされ、その中間はありませんでした。そ

こに、家族以外の人に支えてもらえる可能性が出てきたのです。

老後の選択肢が広がった一方で、介護保険制度は介護を提供する側にも、新たな可能性をもたらしました。介護というこれまで無償で担われていた女性の働きが仕事になるといって、雇用とビジネスの機会です。介護保険のお陰で福祉系のNPOには追い風が吹いています。当初4兆円規模だった介護市場は、今や7兆円規模にまでに広がっています。

●女性も男性も、いきいきと老後を送るには、どんなことを心がけたらよいでしょうか。ヒントをお聞かせください。

一つあげると、友人のネットワークを持つということです。家族はやがて去る、仕事を辞めれば仕事仲間もいずれいなくなる、そして最後に残るのは友人です。つらい、悲しい、困ったと

いうときに、助けてくれる人がいなければ、こんな悲しいことはありません。いつでも立き言を聞いてくれ、困ったときに助けてくれる、友人とはそのために持つものです。その点、ひとりで生きているシングルはひとりであることの気楽さだけでなく、不安もよく知っているので、人とつながることにおいても達人です。自分の時間とエネルギーを家族のために使わなかった分、友人をつくり関係を大事にすることにたけています。

男性のなかには（最近では女性も）、職場と家の往復でネットワークを築いてこなかったという人がいます。そんな人はどうしたらいいか。一番いい方法は「選択縁」をつくることです。実は、早々と仕事を辞め家庭に入った女性たちは、家庭でもない、職場でもない第三の居場所を求めて、志や趣味、地域活動や子どもつながりのネットワ

# おひとりさまの老後を支える仕組みがあれば、誰もが安心して暮らせます



ークをつくってきました。私はそれを脱血縁、脱地縁、脱社縁の「選択縁」と名付けました。選択縁は文字どおり自分で選べる縁なので、気の合う友人がみつかります。

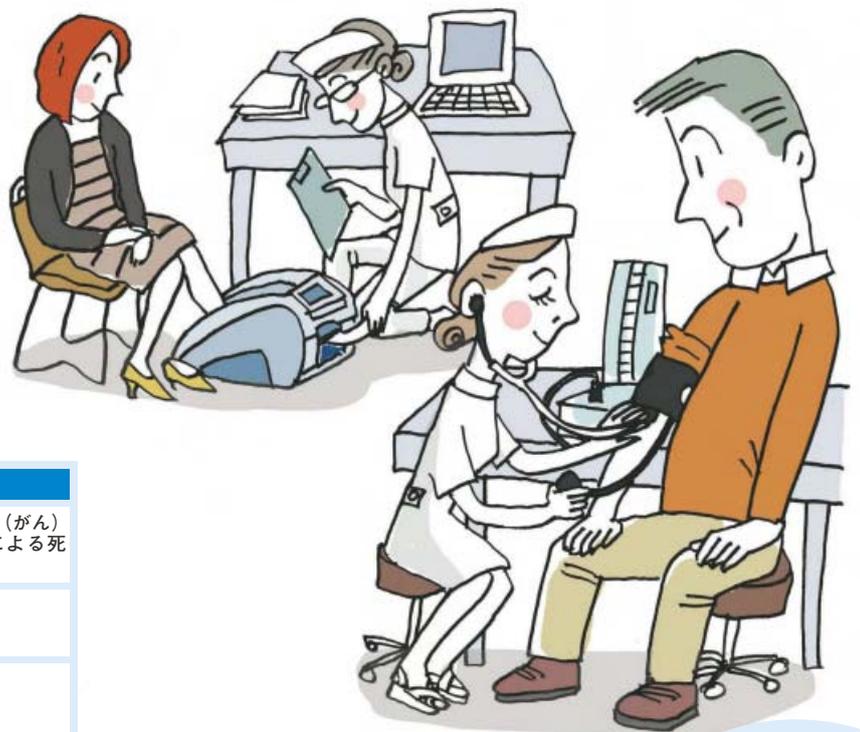
● **ひとりでも安心して老後を迎えられる社会にしていくなにはどんなことが必要でしょうか。**

今の日本の社会政策や制度はすべて家族単位でできあがっています。それらを家族単位から個人単位に変えていくことが必要だと思います。私の最近の研究テーマは「在宅ひとり死は可能か」。もちろん、ひとり死は、孤独死という意味ではありません。おひとりさまでの暮らしを支えてもらいながら、家で看取ってもらえるかという事です。

誰もが住み慣れた家で最後を迎えたいものです。今実践している人たちに取材して、24時間巡回介護、24時間対応の訪問看護、24時間対応の訪問医療の3つが整っていれば可能だと感じました。この制度が整えば、ひとりでも在宅で安心して死んでいけますし、また家族の満足度も高いことが分かります。

誰もが安心して老後を迎えられる社会にしていくなには、当事者が自分にあった介護を選べ、かつ一人ひとりの尊厳が守られ大切にされる地域福祉を実現していくことが必要だと思います。

# 女性も男性もいきいきと 「性差」から考える「健康」



「性差医療」という言葉をご存じでしょうか。性差医療とは、男女の本質的な身体の違いを考慮し、診断、治療、予防を行うことを目的とした医療で、女性外来の設置など近年、日本でも取組が広がっています。とくに女性は妊娠・出産の可能性があり、生涯を通じてホルモンバランスが大きく変化するため、男性と異なる対策が求められます。また、性差医療には男性医療も含まれており、男性更年期外来といった専門外来も登場しています。男女がお互いの身体的特性を理解し合い、ともに支え合いながらいきいき暮らせる社会に向けて、性差を考慮した「男女の健康」づくりについて特集します。

性差を伴う症状例

	女性	男性
死亡率の高い疾患	慢性リウマチ性心疾患、筋骨格系の疾患（骨折、老化、老衰）	肝疾患や悪性新生物（がん） *自殺や交通事故による死亡も多い
慢性疾患	肥満症、白内障、関節症、肩こり症、骨粗しょう症	痛風、前立腺肥大症
がん・心臓疾患・脳卒中の罹患年齢	75～80歳	60～70歳
狭心症・心筋梗塞の危険因子	糖尿病、喫煙	糖尿病、喫煙、高血圧、脂質異常症

## 成人男性基準の医療から性差に基づく医療へ

性差医療とは、男女どちらかに偏ってみられる病気・発症率が同じでも男女間で臨床的に差があるもの。いまだに説明が遅れている病気

- ・社会的な男女の地位と健康との関連
- ・などに関する研究を進め、その結果を病気の診断、治療、予防へ反映することを目的とした医療をいいます。

性差医療の第一人者である天野恵子先生に性差医療が広まった背景、女性外来の概要についてお話しいただきました。

\* \* \*

性差医療は1980年代以降、アメリカにおいて研究が進められてきたものです。それまでの医療は、生殖器と乳房を除いて、臨床研究のデータは成人男性で、女性のデータはほとんどありませんでした。そのため、女性は男性で得られた臨床結果をもとに、診断されてきたのです。

循環器内科の医師である私が性差を考慮した医療の必要性に気づいたのは、およそ30年前、女性の友人の病気がきっかけでした。友人は狭心症を訴えていたのですが、男性基準の検査では発見できなかつたのです。疑問に感じた私は、その後アメリカの研究をもとに、女性特有の狭心症があることを突き止めました。

やがて、医療を受ける側の女性たちからも「診断や治療に納得いかない」「もっと女性の側にたった医療を」などの声が聞かれるようになりまし

た。そこで性差に基づく女性のための医療を行う場として設置されたのが女性外来です。

### 婦人科と女性外来の違いとは

女性外来の特徴は、女性のライフサイクルに伴って変化する女性ホルモンの影響や生活の変化などを考慮し、心とからだをトータルに診る「統合医療」です。主に子宮や卵巣などの生殖器にかかわる部分を診る婦人科との違いはその点にあります。内科や外科、婦人科といった従来の分類に属さず、ちょっとした不調にも目を向けて診察し、じっくり相談のつてもらえる女性のための窓口です。

そのため、女性外来を担当する医師は、自分の専門分野だけでなく、幅広い知識と技能が必要とされます。症状によっては他科やほかの病院を紹介したり、連携をとったりしながら治療を進めていきます。ですから、何科を受診したらよいか分からない場合にも役立ちます。

### 女性外来の診察の流れと方針

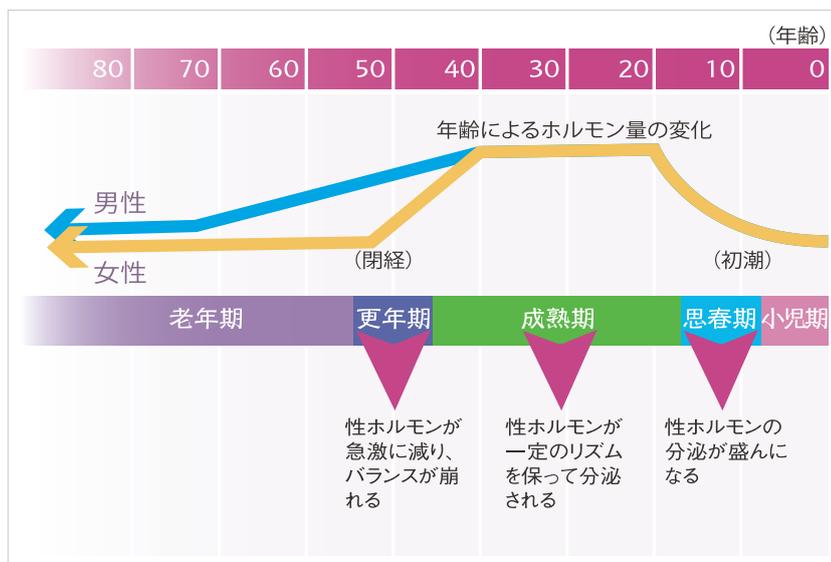
多くは内科医が担当していますが、婦人科医、精神科医などが担当している病院もあります。主に予約制で、開設している日数も限られているため、予約から診察までの期間がかかるところもあります。

女性外来では初診に十分な時間をかけます。その人が訴える症状の背景に何があるのかを明らかにし、

にし、根底にある原因を解決するためです。女性特有の症状や気持ちに寄り添った医療が基本なので、気兼ねなく話すことができます。また、初診で不十分だった場合は回数を重ね、医師は患者と十分話し合ったうえで、治療方針を決めていきます。

さらに、西洋医学だけでなく、東洋医学（漢方、鍼灸、気功など）やアロマセラピー、サプリメントなど幅広い治療法をとりいれているところもあります。私自身、女性外来をやってきて西洋医学の限界を感じてきました。やはり慢性的な疾患や体調不良には東洋医学も必要となります。

女性（男性）ホルモンの変化とライフサイクル



### 男女が健康な生活を送るために

人間のからだは年齢とともに変化していくものですが、女性と男性の大きな違いは、ホルモンの変化です。上の図を見ると、男性ホルモンは70歳くらいまで、緩やかに減少するのに対し、女性は月ごとにも変化し、また40歳後半くらいから急激に減少します。この違いは大きいと思います。

また、男女の地位やライフスタイルの違いから、男女でかかる病気や症状も違ってきます。例えば男性は職場環境がもとでうつになったり、自殺に追い込まれるケースがみられます。弱音をはずせず、不調を感じていてもなかなか相談するまでに至りません。そうした男女の受けた精神的、身体的なストレスの違いに対して性差に応じた医療が整っていないのが現状です。

男女共同参画社会の基本は、男女がともに健康でいきいきと自分らしい人生を送れることです。そのためにお互いの特性を理解し合い、得意な分野で支え合っ、健康づくりにおいてもそんな考え方が大切だと思います。

#### profile

天野 恵子

Keiko Amano



財団法人野中東皓会 静風荘病院特別顧問

1967年東京大学医学部卒業。東京大学保健センター講師を経て、94年東京水産大学保健管理センター教授・所長。96年から東京大学医学部非常勤講師。性差医療研究・実践の第一人者としてセミナー・講演等を多数行う。

※墨田区にある女性外来については、information参照

# 生涯を通じた 男女の健康支援

区では、男女共同参画の視点から区民の健康づくりを推進するため、各種検診や健康診査の受けやすい環境づくりをはじめ、健康教育や保健指導などを進めています。

男女がともに健康な生活を送るためには、それぞれの心身の特性を考慮した対策が求められます。とくに女性は、妊娠・出産をはじめ生涯を通じて男性とは異なる健康上の問題に直面するため、思春期、成熟期、中年・壮年期、高齢期といった人生の各段階に応じた支援が求められます。ここでは、主な健康支援事業を紹介いたします。

## ▼男女のライフサイクルにおける主な健康支援

### 思春期

◆妊婦歯科健診（女）

◆出産準備クラス心理講座（男女）

#### メールマガジン配信事業を始めました

女性の健康づくりを支援するため、携帯電話を活用し、女性が必要とする健康情報などをメールマガジンとして配信します。

開始時期：平成22年7月20日  
第1号配信

配信名：Sumida☆ココカラ

配信内容：  
1. 女性が必要とする各種検診・健診の情報  
2. 講座やセミナーなどのイベント情報  
3. 女性の健康に関するコラム  
4. 国や都の女性の健康に関する情報

配信頻度：月1回 毎月20日に配信



↑  
QRコード

### ◆思春期相談

### ◆心の相談

#### 「男女の健康づくり」について

#### 本所保健センター保健師さんにお聞きしました

墨田区 本所保健センター  
保健師 佐久間 陽子さん

女性の健康にはホルモンバランスが大きく関係します。月経の乱れや不正出血が一つのバロメーターとなるので、思春期の頃から月経周期を記録する習慣をつけておくことをおすすめします。また、この時期の過激なダイエットは月経が止まってしまうたり、将来、骨粗しょう症をまねく恐れがあります。さらに、望まない妊娠や性感染症予防のための正しい知識を得ることも大切です。

成熟期で気をつけたいのは女性特有のがんです。なかでも子宮がんは若い時期から発症します。妊娠前の女性は婦人科の検診を受けることに抵抗があるかもしれませんが、早期発見が何より大切です。子宮がん検診は20歳から行っているのでも、ぜひ受診するようにしてください。また、最近では産後うつになる女性も少なくありません。仕事が忙しく育児や家事に参加できない男性も多いと思いますが、妻が一人で育児や家事を抱え込んでしまわないようにするためには、ぜひ妻の話を聞いてあげてほしいと思います。

更年期はホルモンの減少により心身の不調を感じやすい時期です。発汗、のぼせ、動悸、めまい、頭痛など更年期特有の症状は時期がくれば治まるものですが、症状がひどいときには更年期だからと我慢せず、病院で診てもらいましょう。

一方、男性が気をつけたいのは生活習慣病です。男性の場合、40代過ぎから生活習慣病を発症しやすく、さらに50代以降脳血管疾患、心筋梗塞などを発症する例が多くみられます。こうした人の多くは、30代で肥満を指摘されています。ですから、健診等で肥満を指摘された場合には放置せずに早期に改善するよう心がけてください。

また、なかなか弱音をはけない男性は、心身の不調を感じても一人で我慢してしまう傾向にあります。家族が不調に気づいたら症状を聞いてあげたり、病院に行くことを勧めあげましょう。長時間労働や仕事のストレスから不眠やうつ病、アルコール依存症になるケースが増えています。保健センターではメンタル面での相談事業等も行っていきます。相談機関を訪れるのに抵抗のある方も多いと思いますが、電話による相談も行っていますので、利用してください。

## 区民レポート

### どうしてですか？自分の健康づくり

育児や家事に追われる女性にとって、自分の健康がおろそかになりがちです。日常生活の健康管理について、女性の健康週間（3月15～8日）に行われた「骨盤調整プログラム」に参加した区民の方に伺いました。

#### 自分の体調を知ることが大事

進藤 綾美 さん



女性は家事や子育てに忙しく、意識しないと健診の機会を逃してしまいがちですが、健康管理は大事なので、1年に1回、誕生月に区民健診を受け、2年に1回子宮がん検診を受けるようにしています。

最近、感じているのは疲れが取れにくくなっていること

## 高齢期

## 中年・壮年期

## 成熟期

### 問い合わせ先

各事業の詳細は下記までお問い合わせください。

向島保健センター	03 (3611) 6135
本所保健センター	03 (3622) 9137
保健計画課	03 (5608) 8514

◆妊産婦訪問事業 (女) ◆産後うつ個別相談 (女)

◆出産準備クラス (男女)

◆子宮がん検診 (女/20歳以上)

◆乳がん検診 (女/40歳以上)

◆胃がん検診 (男女/35歳以上)

◆大腸がん検診 (男女/35歳以上)

◆肺がん検診 (男女/40歳以上)

◆前立腺がん検診 (男/50歳~74歳)

◆成人歯科健診 (男女/20・25・30・35・40・45・50・55・60・70歳)

◆骨密度検診 (女/40・45・50・65・70歳)

◆各種健康診査

### 各種講演会・イベントの実施

です。疲れているのに睡眠が浅く、朝早く目が覚めてしまいます。更年期にむけて、自分のからだが変わっているのでしょうね。講座に参加したのは、骨盤調整が健康にいいと友人に誘われたからです。自分のからだの状態を知りたい機会になりました。

#### 夫婦で参加できる講座を

川村美奈さん



産後太りが気になり、講座に参加しました。小さな子どもがいると家にこもりがちになりますが、今回のように託児付きの講座だと参加しやすく、産後うつの予防などにも役立つと思います。

高齢出産だったこともあり、夫も私のからだを気遣ってくれます。子育てや家事も積極的にやってくれるので助かります。いたわってもらうと、相手のことも思いやれるもので、夫の健康も気遣ってあげたいと思います。夫婦で健康チェックができる講座など、男性も気軽に参加できる講座があるといいですね。

#### 家族のためにも自分の健康管理を

小倉久乃さん



二人めを産んでから、風邪が治りにくいなど体調の変化を感じています。家事や子育てに追われていると、自分の健康は二の次になりがちですが、この講座には託児がありましたので参加することができました。

子どもがいると行動が制限されますし、夫も仕事で疲れているとなかなか頼むことができません。自分のやりたいことが思うようにできません。でも、家族のためには自分が健康でいることが大事。気分転換できる時間を持つなど、自分の健康にも気をつけていきたいと思っています。

墨田区男女共同参画推進委員の委嘱を行いました

墨田区男女共同参画推進委員会は、男女共同参画施策を推進するため、区長の付属機関として設置しており、学識経験者、地域団体の代表の方など15人で構成しています。

前委員（平成20年度・21年度）の任期が終了したため、新たに委員の選任を行い、委嘱をいたしました。

新委員の任期は、平成24年3月31日までの2年間です。

委嘱後には、平成22年度第1回男女共同参画推進委員会が開催され、今年度の施策や事業等について活発な議論が行われました。



男女共同参画社会実現のため、様々な取組を進めていきます

男女共同参画社会づくりに向けての全国会議が開催されました

内閣府では、男女共同参画社会基本法の公布・施行日（平成11年6月23日）にちなみ、毎年6月23日から29日までを「男女共同参画週間」としています。

今年度は男女共同参画週間の中央行事として、「話そう、働こう、育てよう。いっしょに。」をテーマに、困難を抱える男女が安心して暮らせる社会づくりや、いろんな分野で活躍している方々の様々な男女共同参画の取組を紹介し、老若男女問わず男女共同参画を身近にとらえていただくため、6月22日に東京都港区のメルパルクホールで「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」が開催されました。第一部では「老若男女の参画社会へ 生活保障の新しいデザイン」と題した北海道大学法学部教授宮本太郎氏の基調講演、第二部では3名のパネリストによるパネルディスカッション「話そう、働こう、育てよう。いっしょに。」が行われました。



全国会議の様子

すみだ女性センターからのお知らせ

すみだ女性センターは 男女を問わず利用できます

男女共同参画社会に向けた講座や講演のほか、男女共同参画関連の図書や貸出しや関連紙・雑誌の閲覧、また施設の貸出し（有料）も行っています。

今秋以降に実施予定の事業

男性対象事業

11月12日（金）高齢期に向けての男性の健康

11月19日（金）男の介護

11月26日（金）お掃除の哲学と実践

DV講座

再就職支援講座

このほかにも様々な講座や講演会を予定しています。

詳しい内容や申込方法は、すみだ女性センターへお問い合わせください。

区報等でもご案内します。

また、専門のカウンセラーが女性の

墨田区内にある 女性外来

墨東病院

女性専用外来

【申込み】完全予約制  
予約センター  
03 (3633) 5511

※予約受付時間

月～土曜日  
午前8時半～午後5時  
（翌日分の外来受付も午後5時まで）

※「女性専用外来の予約」とお申し出ください。

※特集頁（5～7P）参照

男女共同参画社会推進のための拠点施設

すみだ女性センター

〒131-0045 東京都墨田区押上 二丁目2番7-111号  
TEL 03 (5608) 1771  
FAX 03 (5608) 1770

女性のための カウンセリング&DV相談

【相談日時】  
毎週月・火・水・金曜日、  
毎月第2土曜日  
午前10時～午後4時  
要予約 TEL 03 (5608) 1772

【開館時間】  
月曜日～土曜日 午前9時～午後9時  
日曜日・祝日 午前9時～午後5時



持つ様々な悩みやDVに関する相談をお受けしますので、お気軽にご相談ください。

## 人権に関する意識調査がまとまりました

墨田区では、人権が等しく尊重され、お互いを認め合い協力できる地域社会を築いていくため「墨田区人権啓発基本計画」を策定しています。

このたび、人権侵害や差別の問題に関する区民の皆さんの意識を把握し、来年3月に改定する計画の基礎資料とするため、昨年11月に「墨田区人権に関する意識調査」を行いました。今回、男女共同参画社会の実現にかかわる人権意識について、調査結果をご紹介します。

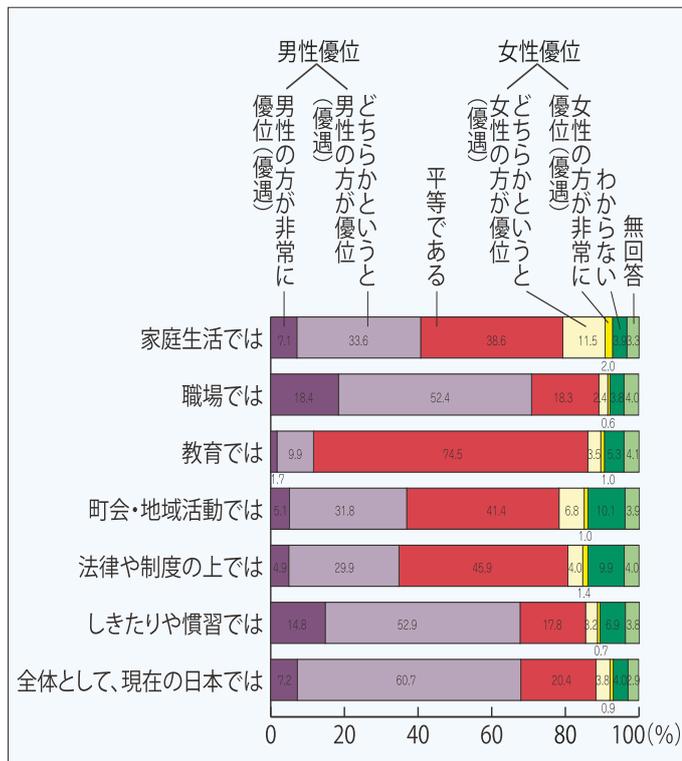
### 【調査の概要】

- 調査対象 : 区内在住の18歳以上の男女2,000人
- 有効回収数 : 1,064件
- 回収率 : 53.2%
- 抽出方法 : 層化無作為抽出法
- 調査方法 : 郵送配布 - 郵送回収
- 調査期間 : 平成21年11月13日から11月30日まで

### ●男女平等評価●

男女の地位の平等感については、教育において、4人に3人(74.5%)が「平等」と考える一方で、家庭生活や職場、しきたりや慣習等については、すべての分野で「男性のほうが優遇されている」と答えた方が「女性のほうが優遇されている」と答えた方を上回りました。(グラフ1参照)

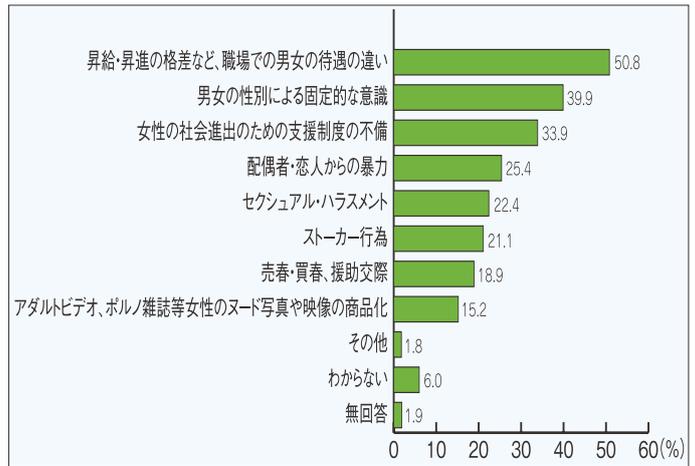
■グラフ1



### ●女性に関する人権上の問題点●

女性に関する人権上問題があると思うことについては、「職場での待遇の違い」を半数以上の方が挙げ、「男女の性別による固定的な意識」や「社会進出のための支援制度の不備」等も指摘されるなど、職場や家庭、地域で男女間の不平等を感じている方の多いことが分かりました。(グラフ2参照)

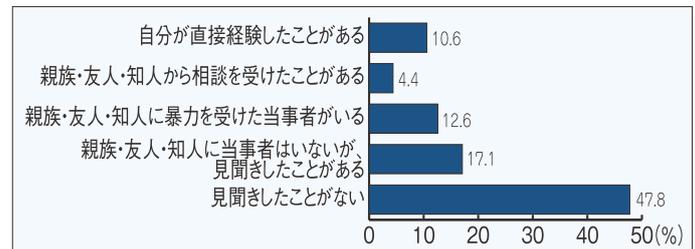
■グラフ2



### ●DV(ドメスティック・バイオレンス)に関する状況や経験●

ドメスティック・バイオレンスについて性別で見ると、女性では10人に1人が何らかの形で経験しており(グラフ3参照)、そのうち約6割が身体的暴力の経験があると回答しています。

■グラフ3



今回の調査により、人権の守られる社会をつくることの重要性が広く社会に認識されていることが分かりましたが、実際の生活の中では、高齢者、子ども、女性、障害がある人等に対して、依然として差別や不当な扱いが残っているということが分かりました。

人権意識の調査結果は、区のホームページでもご覧いただけます。

〔HPアドレス〕

[http://www.city.sumida.lg.jp/sumida\\_info/houkokusyo/jinkenishikityousa/index.html](http://www.city.sumida.lg.jp/sumida_info/houkokusyo/jinkenishikityousa/index.html)

# 若者に増えている「デートDV」って？

## 太郎の高校の授業の巻

墨田さん一家は会社員のお父さん、パートで働くお母さん、大学生のさくら、高校生の太郎とおじいちゃん、おばあちゃんの6人が一つ屋根の下で暮らす、にぎやか3世代家族。

今日は太郎の高校で、専門家の先生を招いて「デートDV」の授業が行われるとのこと。DVは大人の問題と思っていた太郎。さて、どんなことを教わるのか、その様子をのぞいてみましょう。



おじいちゃん



おばあちゃん



お父さん



お母さん



さくら



太郎

# 男女共同

だんじょ  
きょうどう

## 墨田さんちの

# 参画物語

さんかく  
ものがたり

先生 みなさんは「デートDV」という言葉を聞いたことありますか？

Aさん DVなら聞いたことあるけれど……。

Bさん デートDV？ 聞いたことありません。

Cさん 私もです。どんなことなんですか。

先生 実はね。デートDVって、みんなにも関係のあることなんだよ。

太郎 ぼくたちに？ DVって、大人に起こる問題ではないんですか？

先生 DVとは、親密な関係にあるパートナーから受ける暴力のことなのだけれど、特に若い男女間の交際で起こるDVを「デートDV」といって、高校生や大学生などの交際でも起きているのです。

Dさん 本当ですか？

太郎 身近には聞いたことないけれど……。

先生 国の調査で、「交際相手から何らかのDV被害にあった」という10代〜20代の男女は、9・3%もいるのです。

太郎 つまり、約10人に1人が被害を受けているってこと……。

先生 そう。だからみんなにも知ってほしいのだけれど、DVってどんなことだと思う？

Aさん なぐったり、けったり、物を投げたりなどの暴力をふるうことでは。

先生 そうだね。それを「**身体的暴力**」というのだけれど、DVって、それだけではありません。例えばブス、デブ、汚いなど人格を否定することを言ったり、携帯の履歴を細かくチェックした

## DV

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、夫婦(事実婚、元配偶者を含む)や親密な関係にある男女間の暴力をいいます。被害者の多くは女性です。配偶者からの暴力を防止し、被害者の安全を守り、自立を支援するための法律として、平成13年に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が施行されています。

## 国の調査

内閣府が平成20年に行った調査によると、10代から20代の頃に「交際相手がいいた」という男女のうち、交際相手から「身体的・精神的・性的暴力」のいずれかを受けたという人は9・3%で、女(13・6%)が男性(4・3%)を約9ポイント上回っています。また、同調査で、配偶者から何らかの暴力を何度も受けた経験のある女性は10・8%、1・2度あったという女性は22・4%となっています。

## 身体的暴力

DVは身体的暴力に限りません。DVでは以下のような暴力があげられます。

【身体的暴力】 ながる、ける、物を投げつける、引きずりまわす など

【精神的暴力】 大声でどなる、無視する、人前でバカにする、交友関係やメールなどを細かく監視する など

【経済的暴力】 生活費を渡さない、外で働くこと



# 私らしく輝いて

## 定年後の趣味を活かし 四季折々の花にあふれた公園づくり

東あずま公園花クラブ  
佐々木 亮一さん



「わ あ、きれいな花が咲いて  
いる! という声を聞く  
とうれしいですね」

こう語るのは、東あずま公園花クラブ代表の佐々木亮一さん。会のメンバーと共に園内の花壇6区画で季節の花を育て、週に2〜3回手入れをしています。きっかけは区のコミュニティガーデンの講習に参加したことで、その際、専門の講師のもとで指導を受けた地域の人たちと団体登録し、以来東あずま公園で活動を続けています。

「もともと園芸が好きで定年後の趣味にしたいと考えていたのですが、団地住まいのため思うようにならずにいたのです。この活動のお陰で花づくりの仲間もでき、生きがいにもなっています」

花は一年草で、毎年どんな花を植えるか、道路公園課と相談し決めていくとのこと。これまでマリーゴールド、インパチェンスなど、長い期間楽しめる花を中心に育ててきました。

メンバーの一人、三澤豊さん

は、「なかでも評判が良かったのは、サテンのような光沢のある花びらを持つゴデチアという花で、その美しさにみなさん足を止めて見入ってくださいました。また、小林かね子さんは「孫が遊びに来るたびにおばあちゃんの庭について喜んでくれています」

活動を始めて今年で6年目。台風で花が倒されてしまったり、日照りが続いたときには水やりに苦労したりしたこともあったそうです。長年続けてこられた秘訣を佐々木さんに伺ってみると、「何より花を育てることが好きなのです。特に当番を決めずに、できる人ができる時に手入れをするなど、それぞれのペースでそれぞれが好きな花を育ててきたことではないでしょうか」

毎年、どんな花が咲くか楽しみにしている地域の方も多く、今年の春は珍しい花に挑戦しようとして、佐々木さんはナデシコに似たアグロステンマという花を、また三澤さんはネモフィラを、小林さんは金魚草を育てたそうです。

「苦労して育てた花が見頃を迎え、公園いっぱい咲き誇っているのを見ると、何とも言えない気持ちになりますね。趣味を活かしながら地域の役に立てる。こんな素晴らしいことはありませんね」

これからも目にとめてもらえる花壇をめざし、メンバーと活動を続けていきたいと思えます」と抱負を語ってくださいました。



▼  
▼  
▼ 広告

▲  
▲  
▲

感動を生む、想いをつなぐ。  
The Entertainment Company **J:COM**

J:COM サービスのお申し込み・ご相談は当店へ

あなたの街のケーブルテレビのお店  
**ジェイコムショップ すみだ店**

住 墨田区堤通 1-19-11  
リバーサイド隅田ガーデンプラザ1階

営 10:00 ~ 18:00 休 水曜日

J:COM カスタマーセンター AM9:00~PM9:00(年中無休)

**0120-999-000**

フリーコールをご利用の際は、電話番号をお間違いのないようご注意ください。

